招待講演

## 放射光微細加工技術の進展と産業利用

住友重機械工業株式会社 加藤隆典

## **Progress and Industrialization of Micro/Nano-Fabrication Using Synchrotron Radiation** *Takanori Katoh*

## Sumitomo Heavy Industries, Ltd., 19, Natsushima, Yokosuka-city, Kanagawa 237-8555, Japan e-mail: tkn kato@shi.co.jp

夢の光といわれる放射光は、基礎研究分野での材料の組成分析・構造解析に使われるだけでなく、 応用分野では、その直進性と短波長性を生かして、マイクロ・ナノ(微細)加工に適用可能である。 これまで主に、大型放射光施設で行われてきていた微細加工が、近年、より小型の放射光源を用いて 行われるようになり、真の意味での産業利用の道が拓かれはじめている。

本講演では、放射光微細加工技術の代表例として、LIGA(Lithographie, Galvanoformung, Abformung; ドイツ語の露光・電鋳・成形の頭文字をとった加工プロセス技術の名称)および難加 工材料であるフッソ樹脂の微細加工が可能な、弊社独自のTIEGA<sup>™</sup>(Teflon Included Etching Galvanicforming)を取り上げ、その特徴(高アスペクト比・高精度・サブミクロン加工可能)およ び、近年の進展状況について説明し、いくつかの製品適用事例を紹介する。さらに、微細な金型(ス タンパー)を使った微細成形技術との融合例およびマイクロエマルションの製造技術を、放射光微細 加工の大量生産品および高付加価値製品への展開方法を示唆するものとして説明する。

また、軟X線領域のエネルギーを有した放射光と物質との相互作用を積極的に利用することで、 放射光を用いた材料の表面改質、ならびに、相互作用の結果として真空中に放出された原子分子を用 いた薄膜製作方法についても言及する。

(以下、補足)

住友重機械工業株式会社(以下、当社)では、1984年から小型放射光源の開発を開始し、89年に は、単体超伝導磁石からなる円形リング(小型放射光源「AURORA」)への入射・加速・放射光 発生に成功した。「AURORA」は、92年に蓄積電流値500mAを達成し、放射光の産業利用(特に、 X線リソグラフィー)の当社内開発に利用され、96年には立命館大学殿に移設され、現在まで放射 光を利用した研究・教育のため、安定に稼動している。その後、常伝導で強磁場発生可能な磁石形状 を用いて小型常伝導放射光源「AURORA-2」の開発に成功し、97年には、挿入光源の設置が 可能な研究用光源(2D-type)を広島大学殿に納入した。また、98年には産業用に特化した 放射光源(2S-type)を当社内に設置し、産業利用技術の研究開発を行うと共に、対外的にも マイクロパーツの試作・供給を行いながら、半導体分野では一般的となっている受託加工サービス(フ ァウンドリー)の放射光版の可能性を模索してきた。2010年初頭に、AURORA-2Sは、理化 学研究所(和光)への移設が完了し、今後は学術研究ならびに産業利用に利用されていくことになっ ている。





























































































謝辞			
上坪宏道 教授	(SAGA-LS)	佐々木泰三教授	(東大名誉教授)
平井康晴 教授	(SAGA-LS)	田端米穂 教授	(東大名誉教授)
太田俊明 教授	(立命館大学)	鷲尾方一 教授	(早稲田大学)
杉山 進 教授	(立命館大学)	篭島 靖 教授	(兵庫県立大学)
田畑修 教授	(京都大学)	Prof. V. Saile	(FzK, ANKA)
谷口雅樹 教授	(広島大学)	Prof. J. Goettert	(LSU, CAMD)
堀利匡教授	(広島大学)	Prof. H. Moser	(NUS, SSLS)
中嶋光敏 教授	(筑波大学)		
小林 功 博士	(食品総合研究所)	(順不同)	
			50